



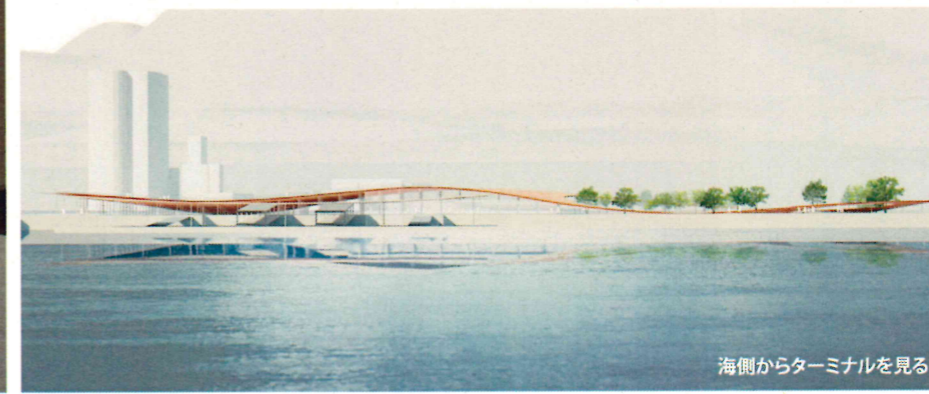
厳島港宮島口地区旅客ターミナル設計業務公募型建築プロポーザル

「なにもないということ」—空と地平による境界—

「空白」としての門



広電宮島口駅から見る



海側からターミナルを見る



大鳥居

||



風景が切り取られることによる「空白」

宮島の自然を前に悠然と佇む厳島神社の大鳥居には、広大な風景に対峙する「空白」の空間性があると考えます。これを参照し風景を切り取られることによってつくられる「空白」としての門が、宮島口の新しい顔となります。

○ 世界遺産・宮島の玄関口にふさわしい「宮島とのつながりを意識した景観形成」

■宮島への眺望「まちの舞台」



宮島への眺望 舞臺の伝統を継承する厳島神社の舞臺

敷地全体を緩やかに覆う大屋根の上では、宮島をゆくりと眺めることができます。古来より自然崇拜の対象とされてきた宮島。そして、舞臺によって奉納されてきた厳島神社の伝統に通ずる、現代のあたらしい「まちの舞臺」がつけられます。

■宮島の山並みと調和したルーフスケープ

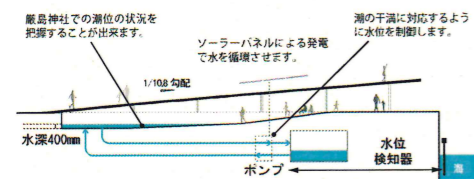


緩やかな曲面によってつくられる大屋根のランドスケープは、旅客ターミナル/広電宮島ガーデン/緑地を一体的に包み込み、周囲の山並みや宮島の風景と調和し、景観に配慮したランドマークとなります。

■潮の干満とともに変化する水の広場



実際の潮位の1/10で水位を連動させることで、干満に呼応した水時計となります。満潮時には水で満たされた静かな待合広場、干潮時には一時的に現れる屋外劇場、にぎやかな親水広場となります。



時間とともに移り変わる自然を体験し、楽しみながらゆくりと滞在できる待合スペースです。

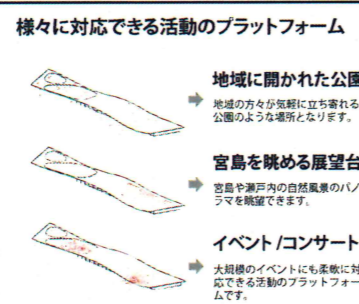
■まちを豊かにする多様な広場

都市軸から継承するにぎわいの連続性

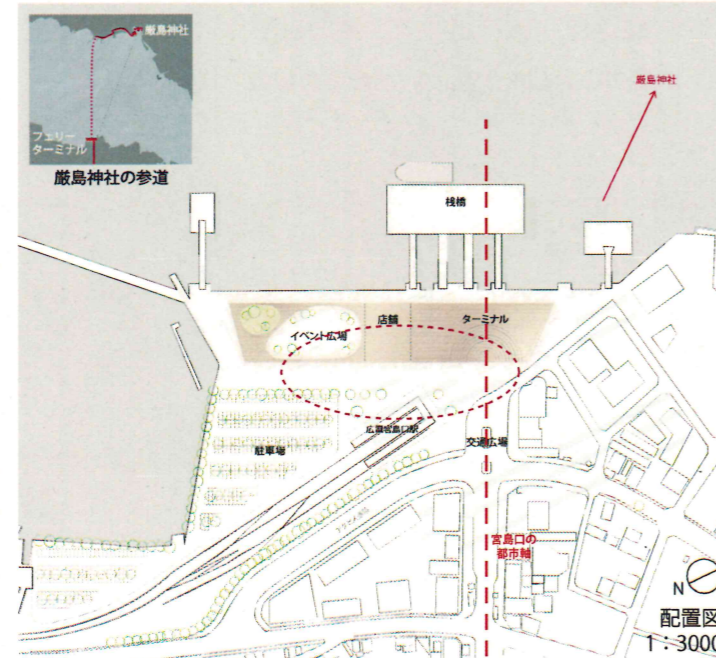


JR宮島口駅から続く都市軸を継承し、フェリーターミナルの屋根の上へと引き込むことで、地面と連続した立体的な広場空間となります。先端まで行くと宮島を望むことができ、厳島神社への参道にふさわしい、新しいにぎわいをつくり出します。

様々な対応できる活動のプラットフォーム

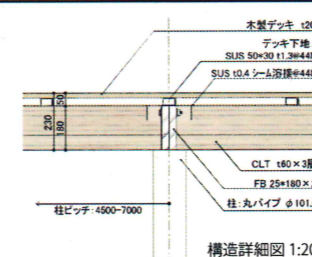


旅客ターミナル/店舗(広電宮島ガーデン)/イベント広場に対して一体的な大屋根をかけることにより、さまざまな規模や種類の活動に対応することができます。まちのプラットフォームがつくれます。また、前面にプラザを設けることで、交通広場や移動予定の広電宮島口駅、駐車場など、周辺で想定されるまちづくり計画に対しても柔軟に受け入れることが可能です。

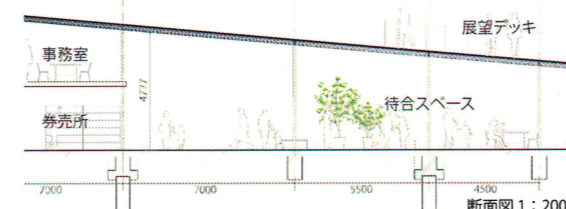


■構造計画

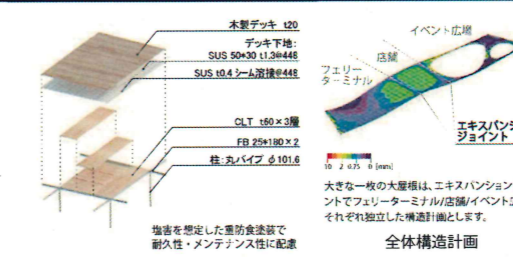
地元の木材を経済的かつ合理的に利用するために、CLTの板材で大きな屋根面をつくります。曲面屋根はスチール枠材をプレートからレーザーで切り出すことにより形状を定義し、薄い木材のしなりを活かし、60mmのCLT材を向きを交互に3層積層することで均一な構造体を作ります。屋根の着地部分および諸室が入る部分で屋根の水平力を安全に処理し、その他のエリアでは101.6φの軽快な柱によって屋根を支持します。



構造詳細図 1:20



断面図 1:200



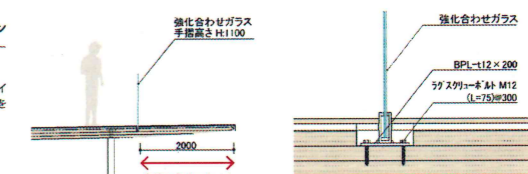
全体構造計画



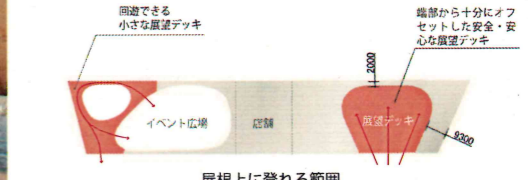
日差しから守られた快適な待合スペース

■手摺の安全性

手摺はデッキの先端から十分にオフセットした位置に設置されるので、混雑時においても安全・安心な展望デッキとなります。手摺は強度の高い強化合わせガラスを用いて、透明感のある開放的な展望デッキを実現します。



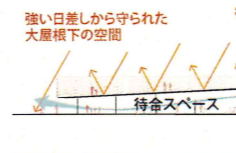
手摺詳細図 1:20



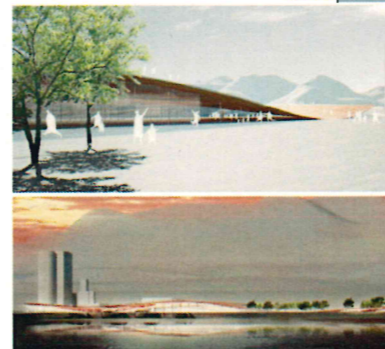
屋根上に登れる範囲

■環境計画

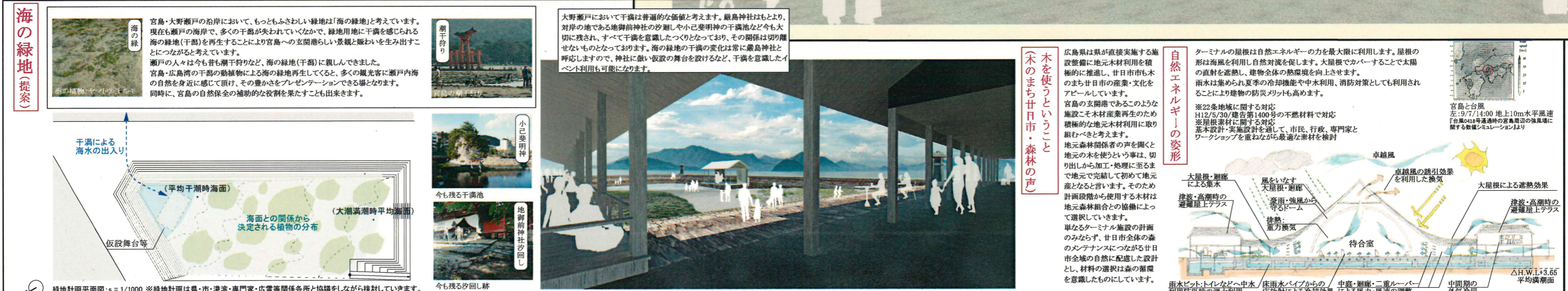
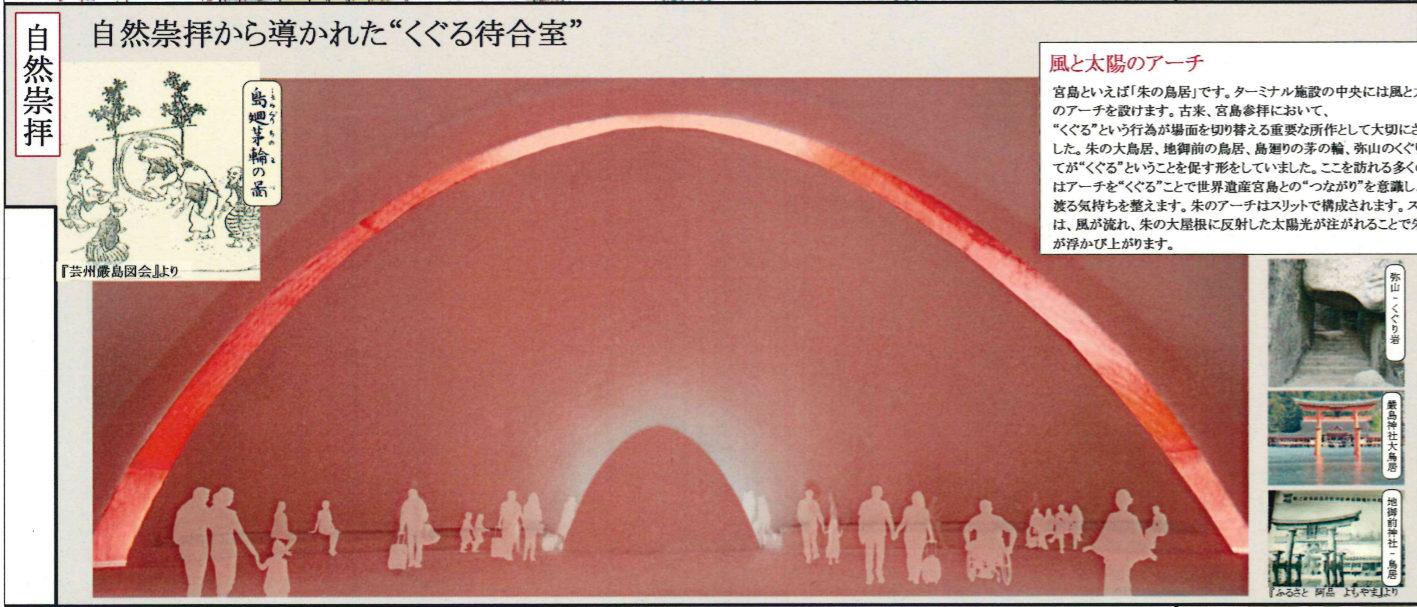
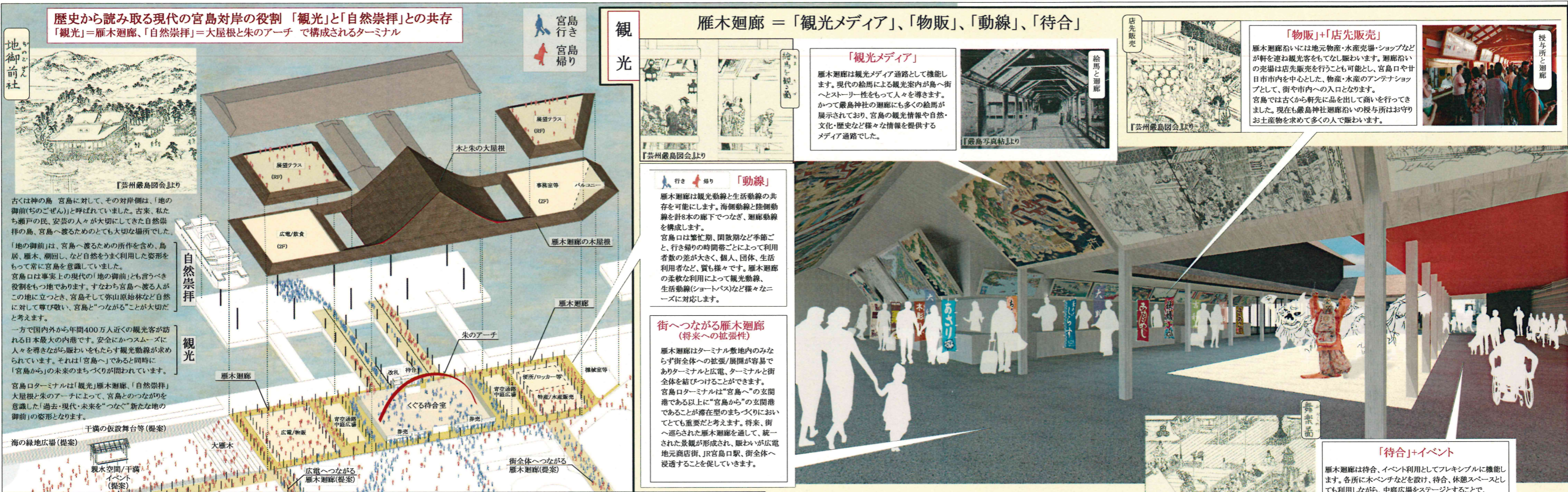
敷地全体を覆う大屋根によって強い日差しから守られた快適な待合スペースとなります。穏やかな風や潮の干満、瀬戸内の自然を感じながら、ゆくりと時間を過ごすことができます。また、屋内面積をコンパクトにまとめることで、ランニングコストを大幅に低減することが可能です。



断面図 1:1000

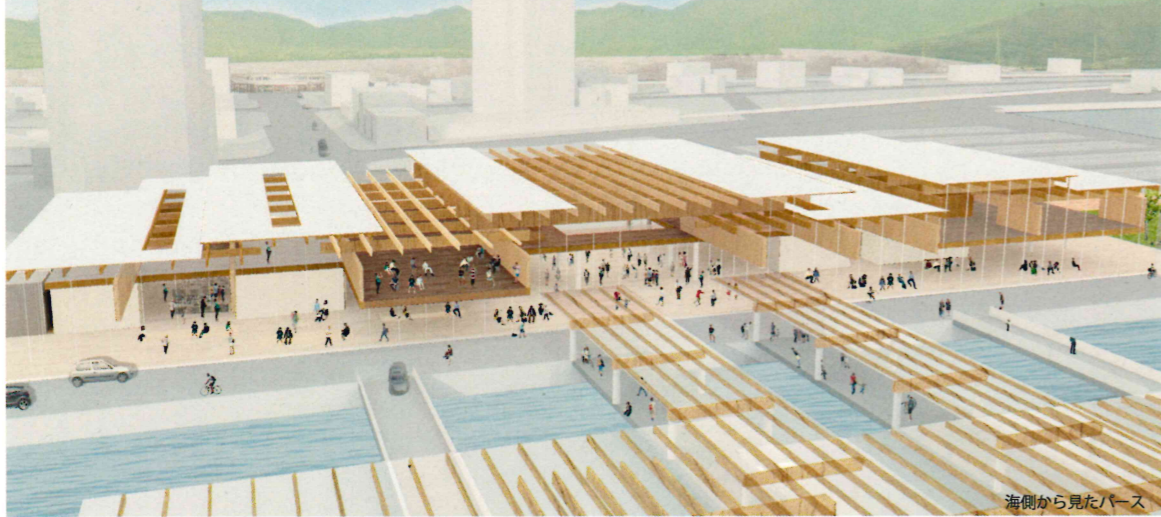


平面図 1:1000

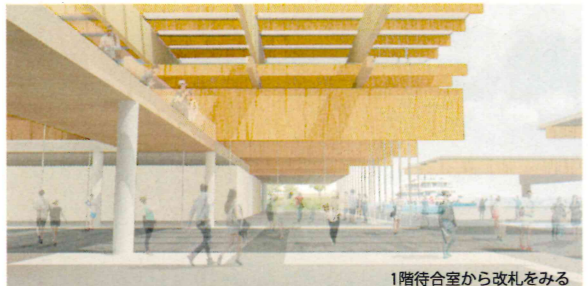


海の杜

幾重にも重なる大きな屋根に覆われた、木漏れ日溢れる「杜」としてのターミナルを提案します。瀬戸内海、さらには厳島神社へのゲートとして、多くの人が集い旅立つ街の結節点は、まるで大樹のもとに多くの人々が集まるように、街に象徴的に求心的な場を生み出します。



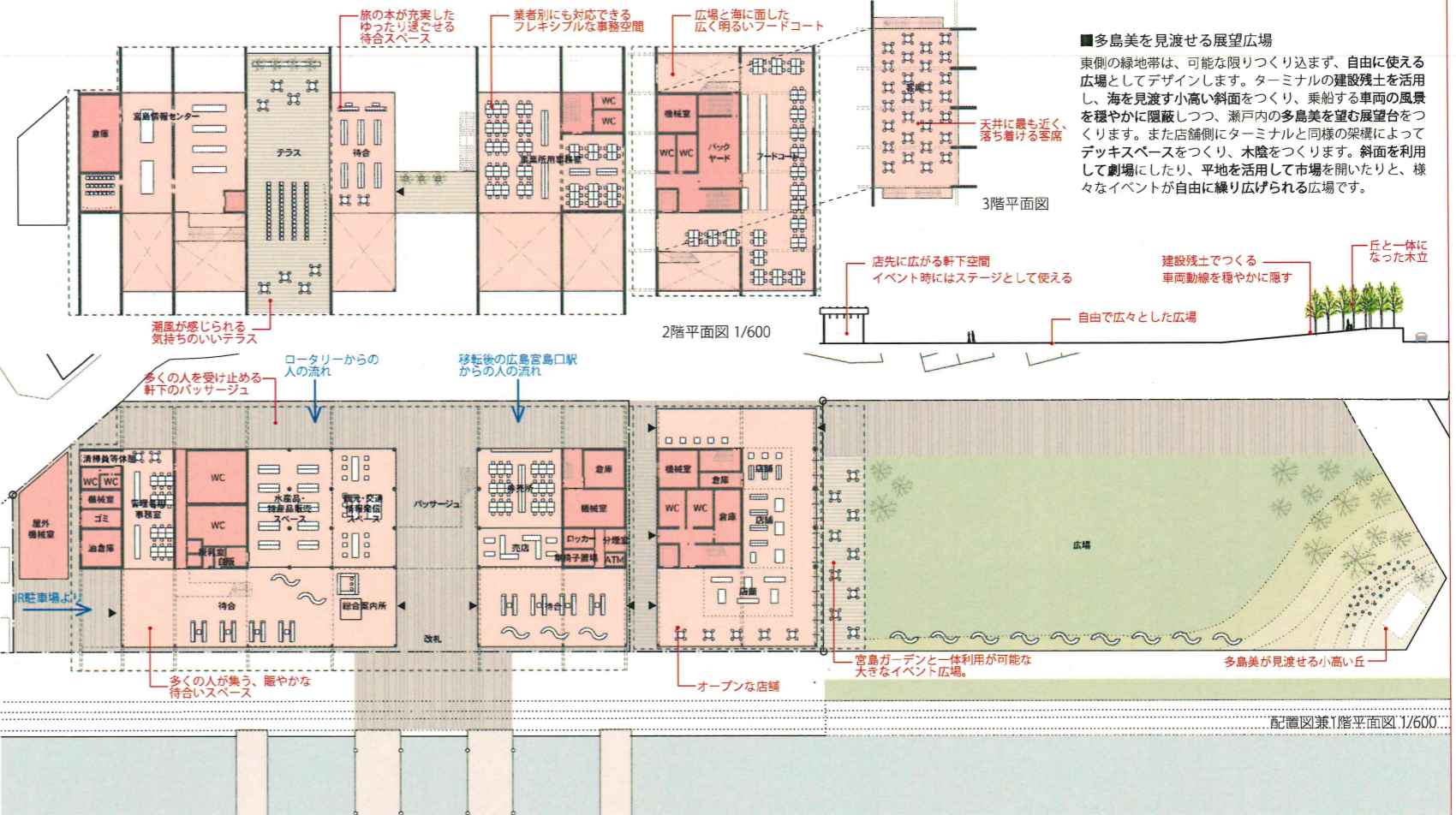
海側から見たパース



1階待合室から改札をみる

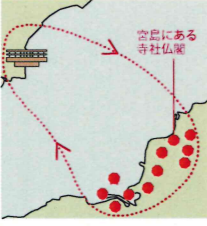


2階待合からコンコースをみる



■多島美を見渡せる展望広場
東側の緑地帯は、可能な限りつくり込まず、自由に使える広場としてデザインします。ターミナルの建設残土を活用し、海を見渡す小高い斜面をつくり、乗船する車両の風景を種やかに隠蔽しつつ、瀬戸内の多島美を望む展望台をつくります。また店舗側にターミナルと同様の架構によってデッキスペースをつくり、木陰をつくります。斜面を利用して劇場にしたり、平地を活用して市場を開いたり、様々なイベントが自由に繰り広げられる広場です。

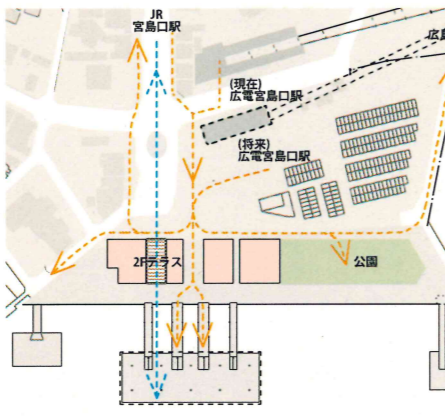
■重層する屋根と梁—厳島神社と呼ぶ大屋根
「杜」をつくる大屋根は、大きな梁が縦横無尽に重層して屋根をつくり、その屋根がさらに積層することで生まれます。低層でありながらターミナルとしてのシンボル性を併せ持つ、街並みに調和した大屋根です。幾重にも重なる梁と屋根は、厳島神社や豊国神社の伝統的な架構形式を彷彿とさせながら心地よいスケール感を醸し出し、対岸の厳島神社と呼び出した新しい名所を生み出します。



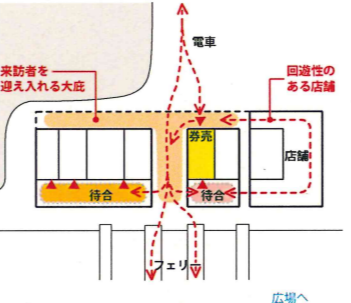
■木漏れ日と集う人々がつくる風景
重層する梁と屋根には、ハイサイドライトやトップライトを通じて木漏れ日のような柔らかな光が拡散しながら降り注ぎます。一日の光の動き、水面の輝きなど、この土地ならではの豊かな自然を繊細に映し出す心地よい空間です。フェリーを待つ人、瀬戸内海を眺める人、買い物に来る人、思い思いに集まった人たちは、その木漏れ日の光と相まって、美しい「杜」の風景を現出させます。



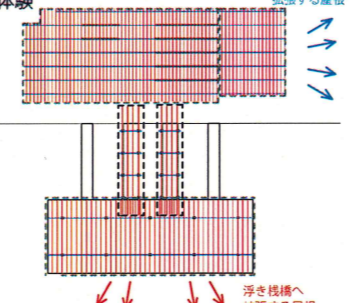
■街とつながるターミナル
JR宮島駅からまっすぐ伸びる通りの延長上には2階に大きなテラスを、今後整備される駅前広場に面して、通り抜けのバスケット空間をつくります。また正面には大きな庇空間を設けることで、宮島口の街の骨格を尊重しながらその魅力を最大化するターミナルとなります。駅から自由に通り抜けたり、テラスを介して海への期待感を膨らませたりと、宮島口の街にしかない魅力がターミナルによって浮かび上がり、これからのまちづくりの起点となります。



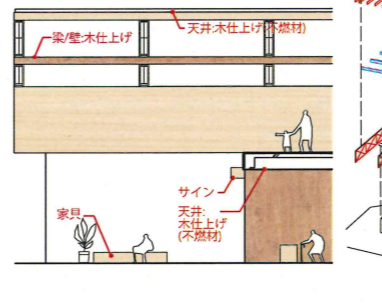
■わかりやすく使いやすいターミナル
多くの市民、観光客が訪れる宮島口のターミナルは、わかりやすく使いやすいことが何よりも大切だと考えます。切符を買う、待合いで時間を過ごす、急いで乗船する、どのような人々にとっても常にわかりやすく、また使いやすいユニバーサルなターミナルを、空間的な配慮と魅力的なサイン計画を運動させることで実現します。



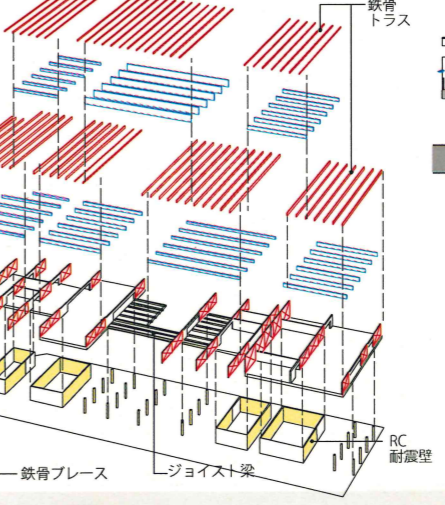
■浮き橋と連続する空間体験
浮き橋とそこに至る歩道橋の屋根を、ターミナルと同じ架構形式で行います。すでに工事が先行している浮き橋や歩道橋など柱間に制約を受ける場合でも、この梁が積層する架構形式は容易に展開することができます。瀬戸内海へ、宮島、厳島神社へ、印象的なシークエンスを一体的に形成します。



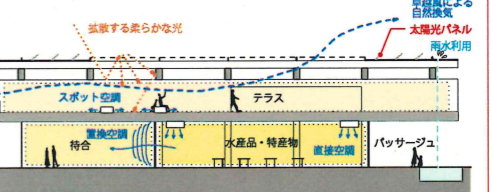
■木に包まれた空間
室内空間においては、可能な限り地場産の木材を使い、暖かみのある空間をつくりたい。天井仕上げ、梁、壁、家具、サインなど、随所に木材を使い、木の質感だけでなく、香りや触感も含めて体感できる空間とします。現代的な構造計画と木のハイブリッドな空間によって、ダイナミックな現代性と身体的な癒しを体感できる「杜」が生まれます。



■合理的な構造計画
屋根は鉄骨トラス構造とし、大スパンを可能にします。直交する方向に鉄骨トラスを重ね、ダイナミックで開放的な空間を実現します。1階は耐火性・耐久性を考慮してRC造とし、水回り・倉庫等の壁を耐震壁として利用します。また、改札・券売所・販売スペースはジョイント梁として支持し、開放的な空間を可能とします。2階は鉄骨造とする事で軽量化を図り、耐震壁は鉄骨ブレースで計画します。意匠と構造計画が合理的に融合した計画です。



■地域の気候風土を活かす
ターミナルは年中無休で稼働率が高いため、維持管理が容易で信頼性の高いシステムを構築するとともに、自然エネルギーを積極的に活用します。梁間にあるハイサイドライトやトップライトは自然光だけでなく換気機能を設け、北北東の卓越風が吹き抜ける計画とします。さらに広い屋根を活かして太陽光パネルの設置や雨水利用を行います。



■機能に応じた空調設備
館内空調は大きく3段階に分けて柔軟に計画します。接客・事務、店舗、展示空間等は、要求される温湿度に調整可能な空調設備を設けます。待合スペースは、室内空調の排熱カスケード利用による置換空調を行い、空間に応じて直接空調の併用を検討します。バスケットやテラスなど半屋外空間は、真夏・真冬など温熱環境が厳しくなることもありうるため、一次空気の冷却加熱能力を持つスポット空調により居心地の良い暖か環境とします。段階に応じた柔軟な空調計画はスペースの有効性を発揮するだけでなく、省エネルギー化と維持管理の簡便性を両立します。熱源はモジュール型ヒートポンプチャージ(耐塩害)とし、数台のユニットを組み合わせることで一部機器の故障時においても相互補完が可能システムとします。

